



TITLE:

<巻頭言>AI のもたらすもの

AUTHOR(S):

英保, 茂

---

CITATION:

英保, 茂. <巻頭言>AI のもたらすもの. Cue 2017, 38: 1-2

ISSUE DATE:

2017-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/227450>

RIGHT:

## 巻頭言

# AI のもたらすもの

昭和 39 年卒 京都情報大学院大学副学長・京都大学名誉教授 英 保 茂



最近情報技術の進歩に関連して、話題となり、社会の興味をかき立てているものに、ビッグデータ、IOT、およびそれらを用いた、AI、ディープラーニングなどがあります。これらは、ひとくくりにいって人工知能（AI）と言っていると思いますが、電気・電子・情報分野における基盤技術の着実な進展に基づき、それらの応用技術の飛躍的な発展の結果として出現してきたものといえるでしょう。その進歩が、あまりにも急激で驚異的なことから、高度に知的な人工知能マシンが出現することに対する、恐れや不安を抱く論調（学術的なものを含め）も多く見られます。

もともと、計算能力（精度・速度）、正確な大容量の記憶、超大規模なマシンの連合体とデータ伝送能力など、これらは、どれをとっても私たち人間が太刀打ちできるものではありません。考えてみれば、昔はもっぱら専門家が利用していたコンピュータ（システム）は、現在では、ネットワーク機能を含めて、ほとんどの人が、普通に携帯し、簡単に利用しています。まさにユビキタス社会が到来しており、その恩恵を、子供から大人まで、多くの人々が享受できる状態そのものは、高度な知的マシンの一般への解放という観点からみても、大きな革新の時代に入っているといえるものでしょう。

IOT（Internet of things）についても、電気・電子関連の素子の開発・発展により、高機能・高速プロセッサシステムが安価な小型・省電力システムとして利用可能になったことと、インターネットにおける高速・高信頼データ通信がハードとソフトの発達と絡めて、実現できたなどという、これも電気関連の技術の輝かしい成果と誇れるものであり、機器同士が取り決めに従って情報を交換し、定められた適切な動作を自動的に行うような仕組みも実現されており、疲れを知らないものたちのサポート社会は私たちに明るい未来を提供してくれるだろうと期待されるところでもあります。

囲碁や将棋などの世界で、AIといわれるものが人間に勝利したとしても、それは、評価できる目的が設定できるような問題に対しては、人間より遙かに高い機能を持っているマシン群を使いまくれば、当然の結果として、（一人の）人間を打ち負かす結果が出たとしても、それほど驚くことではないでしょう。開き直って、ビッグデータや膨大な資源を用いた AI の繰り出してきた手法を改めて眺めたときに、過去の経験や論理立てからは見過ぎていた新しい攻め方や対象に対する新たな深い理解が進むこともあるでしょう。

このように、人工知能そのものは、基本的には私たちの生活を豊かにするものとして存在しているはずですが、もう少し正確に言えば、そのような動機に基づき設計・製作されてきたものでしょう。しかし、その能力が強大なものになってきたため、利用の仕方によっては、オーウェルの小説「1984 年」（60 年以上前の SF 小説）に描かれている世界——双方向情報伝達システムを用いて、個々人の動向が把握され、また、繰り返し提示される管理された形での情報の刷り込みや歴史の改ざんなども行われるような管理社会——になる恐れがないわけではありません。ネットワーク上の情報は、気づかぬうちに収集され分析され加工されて流布されるといったことが行われている部分があるのも事実です。正しい（？）目

的に運用されている場合は、それも許容されるものであるのかもしれませんが・・・。

もう少し身近なところで見えますと、疑問点や調べたいことがあると、ネットで検索をすれば、直ちに多くの情報が出てきます。ちょっとした知識の確認を含め、極めて有効なそして高度な百科事典として便利なものです。ネットにアクセスできれば、ほとんどのことがわかるという時代になってきたという感じもします。AIはここでも使われていて、情報の出現順位なども制御しているともいわれています。ここにも、情報操作に関連した不安要素は存在しています。さらには、発信されている情報も、玉石混淆であり、時には間違いや偽情報も含まれています。こういった状況のなかで、真の正しい情報を獲得することはできるのでしょうか・・・。不確かな知識の確認のための検索であれば、基本的なことを知っているわけですから、おかしい情報、間違っただけ情報は容易に検出できます。このことを少し拡大しますと、ネットからの情報のみに頼るのではなく、常日頃、技術的な事柄に限らず、いろいろな分野の基本的な知識・常識を蓄えるように、ネット以外の（旧来の）媒体からの地道な情報獲得（学習）を心がけることが大事です。さらに学術・技術分野の知識にとどまらず、文化・芸術などを含むオールラウンドな知識・教養を身につけておくことが、正しい判断の基本となるのではないのでしょうか。学生諸君・技術者の皆様方には広い知識と教養を身につけ、真実を見定める力を持った社会人として活躍していただきたいと願っています。